

足立区基本構想審議会 第1回子ども専門部会 会議録

日 時 平成27年9月15日（火曜日） 午後2時から4時

場 所 足立区役所中央館 8階特別会議室

出席者 足立区基本構想審議会 子ども専門部会委員（10名）

村上祐介委員、野辺陽子委員、河本孝美委員、小林雅行委員、志自岐亜都子委員、早木美恵委員、渡辺ひであき委員、岡安たかし委員、鈴木けんいち委員、定野司委員

事務局 政策経営部長、政策経営課長、基本構想担当課長、経営戦略推進担当課長、基本構想担当係長、(株)地域計画連合

オブザーバー 学校教育部4名、子ども家庭部4名、地域のちから推進部1名、子どもの貧困対策担当部1名

議題等 1 部会長および副部会長の選出

2 今後の討議の進め方

3 基礎情報、これまでの審議会意見、財政状況及び区民が考える将来像（報告）

4 意見交換（現状と将来の課題の整理）

5 事務連絡

資 料 【資料 子①】足立区基本構想審議会 子ども専門部会名簿・日程

【資料 子②】今後の討議の進め方

【資料 子③】子ども専門部会 基礎情報及び審議会意見一覧

【資料 子④】区の財政見通しについて

【資料 子⑤】子ども専門部会 課題整理及び将来像等検討シート

【資料 13】「区民あだちサロン（座談会）」及び「中高生ワークショップ」
将来像

1 部会長及び副部会長の選出

基本構想担当課長：お待たせしました。定刻になりましたので、ただいまより足立区基本構想審議会、第1回子ども部会を開催させていただきます。本日はお忙しいところご出席いただきまして誠にありがとうございます。私は事務局の基本構想担当課長の山本と申します。この後、専門部会の部会長及び副部会長が選出されるまでの間、進行を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。なお、専門部会の開会中は、事務局の他にオブザーバーとして関連する区の職員も出席させていただきます。本日は学校教育部・子ども家庭部・地域のちから推進部・子どもの貧困対策担当部の職員です。本日の審議の内容を、今後の各計画や事業運営等に活用させていただきますが、必要に応じて事業等に関する質問がございましたら回答させていただきます。ただし、担当事務の関係などで、この場でお答えが出来ないものは後日の対応とさせていただく場合もございますので、ご了承をお願いいたします。

それではお手元の資料の次第をご覧ください。1番目の部会長及び副部会長の選出です。足立区基本構想審議会条例施行規則第4条に基づき、各専門部会の部会長には議事の整理を、副部会長には部会長に欠席等の事故があった場合の代理を務めていただきます。共に委員の互選により決定いたします。恐れ入りますが次第の次にございます、子ども専門部会委員名簿をご覧ください。まずはこの中から部会長の選出となります。どなたがよろしいでしょうか。

野辺委員：村上先生にお願いしたらいかがでしょうか。

基本構想担当課長：ただいま学識者委員の村上委員とのお声がありましたが、村上祐介委員は東京大学大学院教育学研究科准教授でいらっしゃいまして、中央教育審議会委員としてご活躍中の上、足立区教育委員会有識者会議の委員としてもご尽力いただきました。部会長としてご異存がないようでしたら拍手でご承認をお願いいたします。

(拍手)

基本構想担当課長：ありがとうございました。それでは村上委員に部会長をお願いしたいと存じます。続きまして副部会長についてはいかががいたしましょうか。

村上部会長：野辺委員はいかがでしょう。

基本構想担当課長：ただいま野辺委員とのお声がありましたが、野辺陽子委員は足立区民生児童委員協議会第五合同会長並びに鹿浜地区会長でいらっしゃいまして、区政運営においても多大なご協力をいただいております。副部会長としてご異存がないようでしたら拍手でご承認をお願いいたします。

(拍手)

基本構想担当課長：ありがとうございました。それでは野辺委員に副部長をお願いしたいと存じます。ここからは村上部会長に進行をお願いしたいと存じます。

村上部会長：村上です。今日はお集まりくださいまして、事務局の皆様もどうもありがとうございます。私は学識委員という枠で参加させていただいているので、足立区の地元の人間ではないのですが、専門は教育政策・教育行政ですので、子ども部会の方に今回入れさせていただいております。私は今回、足立区は初めてなのですが、いわゆる子ども部会というカテゴリーで、子どもの教育なり福祉とか貧困の問題等々を一つの部会で設定して議論をするというのは、これはやはり区として子ども施策というものに非常に力を入れているということかと思います。やはり基本構想の一つの大きな柱として、子ども、あるいは若者を足立区でどういうふうに育てていくかということは、やはり非常に大きなテーマだと思います。今日から3回になりますが、皆様のご意見をいろいろといただいて、それから私は足立の細かい事情とか分からないところもありますので、そうしたところも含めまして、ぜひ今後の足立区の子ども行政のために良い基本構想を作れば良いなと思っておりますので、進行がつかないかもしれないかもしれませんがどうぞよろしくお願いいたします。

では審議に入ります。まず配付資料の確認を事務局からお願いしたいと思います。

基本構想担当課長：事務局から本日の配付資料の有無を確認させていただきます。最初に本日の次第です。続きまして資料子①と表示のある子ども専門部会の委員名簿と日程です。続きまして資料子②と表示の今後の討議の進め方です。続きましてA3版で資料子③と表示の子ども専門部会基礎情報及び審議会意見一覧です。続きましてA4版の資料子④と表示の区の財政見通しについてです。続きましてA3版の資料子⑤と表示の子ども専門部会課題整理及び将来像等検討シートです。続きまして資料13と表示の区民あだちサロン及び中高生ワークショップ、私たちの考える足立区の将来像ですが、全体会でも配付したものをさらに有効活用していただきたく再度配付させていただきました。最後に、委員の皆様には参考として、前回の会議録を配付してございます。26ページとなっております。以上、資料に不足はございませんでしょうか。以上です。

2 今後の討議の進め方

村上部会長：どうもありがとうございました。ではまず資料確認が終わりましたので、次に次第2になりますが、今後の討議の進め方について事務局から説明をお願いします。

す。

基本構想担当課長：それでは資料子②と表示の今後の討議の進め方をご覧ください。前回までの全体会では、検討素材や区民あだちサロンの意見等もご参考にしていただきながら、足立区が置かれている現状や、これまでの区の取り組み、将来の課題などについて意見交換をしていただきました。そして各専門部会の調査を付託された項目がこの資料の1の①、将来像、目指すべき将来の姿を示す都市像と、②将来像を設定した根本となる考え方、基本理念です。

三角形の図をご覧ください。一番下の基本計画を除いた項目が基本構想に当たります。部会として区の将来像とそれを設定した根本や背景である基本理念を3回の部会で考案していただき、その後の全体会でまとめ上げていくことになります。将来像を実現するための基本的方針についても、全体会での討議となります。なお、将来の時期のとらえ方については、10年後から30年後ぐらいまでの間ということでお考えいただきたいと存じます。

続きまして2の検討プロセスです。表の太枠部分が部会としての将来像や基本理念を考案するためのプロセスです。専門部会の第1回、本日については現状と将来の課題について、全体会に引き続きまして子ども分野として意見交換をしていただき、その論点などを整理していただきます。それを元にしたまとめの案を次回の第2回でお示ししますので、第3回まで討議を重ねながら固めていっていただきたいと存じます。表の下部分は、全体会についてとなっております。以上です。

村上部会長：どうもありがとうございました。今後の討議の進め方に沿って、これから3回の討議を進めていくことになるのですが、その将来像、それから基本理念というところのいわゆる根本となる考え方というところなのですが、私が個人的にこうしたらよいと思うのは、分かりやすいというか、伝わりやすい、一言で言って伝わるようなフレーズが、将来像とか基本的方針の中に入ると、区民の皆様に分かりやすいものになるので、必ずそうならなければいけないわけではないのですが、出来れば分かりやすいフレーズのようなものがどこかに入れられるといいなと思っています。

それから将来像については、一つでなく複数あってもいいかなと思います。もちろん一つに絞るという形でも複数でもどちらでもかまわないと思います。基本理念は先ほど申し上げたように、なるべく分かりやすいようなフレーズで何かまとめられればよいと考えております。それから、期間としては10年後から30年後となっているのですが、30年後というとなかなか想像が付きにくい、あるいは、私もこの中では生きているかもしれませんが分からないので、先のことだと思いますが、例えば皆様がご自身の30年後でもよいですし、今の足立区の子どもたちが社会の中心として働いている頃というのをイメージしていただいてもいいですし、あるいは2050年ぐらいというようなイメージで考えてもよろしいかもしれません。そのあたりはそれぞれのイメージと言うか、30年後というものを一つのイメージとして、もちろんそれより

前の 10 年後とか 20 年後ということもあり得るのですが、10 年後、20 年後、30 年後というぐらいのスパンでお考えいただければと思います。

それから今日のミッションについては、こちらは全体会の続きのような形で、つまり現状と将来の課題というものを、子ども部会の扱う分野に絞って、全体会では足立区全体の話が出てきたわけですが、今日は専門部会なので子ども、それから若者といったところに焦点を絞って全体会の続きをする。つまり、現状と将来の課題というものをを出していくというようなことが今日のミッションになります。具体的な将来像とか基本理念については、次回の会合でまた議論出来ればと思いますが、今日はイメージとしては全体会のテーマを絞って、少人数で活発な議論をして続きをするというイメージで、現状と将来の課題を整理していこうと考えております。

では、今事務局から説明がありました資料も含めて何か質問がありましたらお願いします。なお、発言の際は記録に必要ですので、お名前をお願い出来ればと思います。何か質問等がありましたらお願いいたします。いかがでしょうか。

岡安委員：専門部会を 3 回やって、それぞれのミッションが書いてあるのですが、3 回目ですとまとめて、基本構想の素材となる分野ごとの将来像、基本理念についてとりまとめ案を確認・協議するという事で、足立区基本構想は 10 年前のこの冊子ですが、子どもについてどうこう詳しく書いてあることではありません。今回、専門部会・子ども部会で議論したものが、例えば最初の方に基本理念と書いてある、そこにそういう子ども部会での議論をした理念というのを、その中に盛り込む盛り込まないとか、多少書いてあるところはありますが、次世代育成の推進ということで、あとは教育に関しては何点か書いてあるのですが、こういうところにこの 3 回の議論の中で、大きく、ある文章を入れようとか、そういうことで今回の 3 回の議論をやっていくという認識でよろしいのでしょうか。

村上部会長：私の部会としての考え方はそのような形で進めるのがよいのではないかと考えています。部会として設定されているので、やはり一つの柱として考えていく問題ではないかと個人的には思っていますが、事務局で何かお考えがあればお願いします。

基本構想担当課長：ただいま部会長がおっしゃった通りですが、それをまた全体会に報告していただいて、そのまま行くか、形を変えていくか、場合によってはさらに膨らませるか、そういったことはまた全体会で行われるものとお考えいただければと存じます。

岡安委員：何が言いたかったかというと、結構時間を掛けて議論をする割に、それほど書いていないものですから、表現するとなると結構省略されてしまって、エキスしか入ってこないのかなという感じがしますが、今度もそのようになるわけですね。

基本構想担当課長：成果物としての分量はこれから原稿が出来ていきまして、議論がいろいろあればページ数が大きいものも出来ますし、場合によっては収斂されていけば薄いものになるかもしれません。これは未定で、今後の審議の流れに沿って皆様のご意見を頂戴しながら進めていきたいと思えます。

村上部会長：ありがとうございました。他にいかがでしょうか。

鈴木委員：岡安委員と関連するのですが、検討プロセスについて、今日の第1回の役割、また、この部会の役割としては将来像たたき台を作成するということですね。今日の議論を踏まえて事務局がたたき台を作るようですね。そうすると、課題とか私たちが発言をすると、事務局がまとめてくれて、形にして次回に出してくれるという理解でよろしいでしょうか。

基本構想担当課長：本日は将来像ということを実先を考えるということよりは、第3回全体会に引き続きまして、現状・課題等お話をしていただき、それを後ほどの説明にはなりますが、前方にホワイトボードもございますので、そのあたりで部会長がどのようにおまとめいただくかですが、それを終了後に事務局でまとめて、次回にはこういったものでしたがこれで何か手を加えるところはとか、不足するところはとか、そういった話を次回以降出来ればと考えております。進め方は部会長に後ほどご説明いただければと思えます。

村上部会長：よろしいでしょうか。では今回はそのような形で、まず現状と将来の課題をそれぞれ出し合った上で、それをベースにまずは事務局からたたき台を出していただいて、それをまた全員で議論をして、修正するところは修正していくというような形で進められればと思っております。

先ほどの基本構想の中身をどうするかという話についてですが、個人的には無理矢理薄くして落ちてしまうよりは、厚くなって全体を読む人は少なくなるかもしれないですが、興味のある部分を読めるようにしたほうがよいと思えます。その場合に、要約というのが前にあって、そこを見れば全体像が分かるとか、そういった構成で、無理矢理薄くするよりは、多少文章が多くなっても要約を付けたりしてメリハリを付けて、載せるべきことは載せた方がよいのではないかと今は思っているのですが、これは少し全体の議論を見ながら考えていくことになると思えます。私の独断では何とも言えないので、牛山会長他皆さんの意見を踏まえることになるかと思えます。

他に今までのところで何か質問等ございますか。よろしいでしょうか。2番目の今後の討議の進め方はこのぐらいにしまして、また何かありましたら意見交換の中で出していただければと思えます。

3 基礎情報、これまでの審議会意見、財政状況及び区民が考える将来像

村上部会長：次第3に移ります。基礎情報とかこれまでの審議会意見、それから財政状況及び区民が考える将来像ということですが、これについては事務局から説明をお願いしまして、その後に質疑・意見交換という形で進めていきたいと思います。

基本構想担当課長：それでは後の意見交換の際にご活用いただきたい資料、4点についてご説明します。まずはA3版の資料子③と表示された子ども専門部会基礎情報及び審議会意見一覧をご覧ください。上の段の基礎情報は、検討素材の中から区の現状、社会動向、現行基本構想に対する区の取組み等と分けて、主な項目の見出しを抽出したものです。下の段は、第1回から第3回までの審議会・全体会でいただいた意見を、子ども分野に関する部分と4専門部会共通と捉えた部分について、それぞれ現状と将来の課題に分類したものです。

続きましてA4版の資料子④、区の財政見通しについてをご覧ください。これは第3回審議会での介護などの扶助費は増加しても税収が増えないあたりをどのように認識するかが大事なため、データで示すようにというご要望に基づき作成したものです。将来の財政状況については、第2回審議会での資料9でもご報告しましたが、その際は扶助費や施設更新経費などは伸びていくと予測しておきながら、区の歳出総額は計画上抑えていくという説明のみでございました。今回はこれまでの決算状況を基にして、増加し続ける区の歳出総額と、一方で伸び悩む税収等が懸け離れていく見通しであるとお示しするものです。中ほどのグラフについては、いろいろ重ね合わせていて補足が必要ですので、この場で説明させていただきます。

左側の2本の棒にご注目ください。このうち左が、平成13年度の歳入総額で、右が歳出総額です。14年度以降も歳入と歳出の2本を並べています。13年度の左の棒で緑色部分が区民税の収入です。その上にある青色部分が23区の財政状況に応じて東京都が交付する財政調整交付金です。この緑と青の合計額について、点で各年度を結んでいくと、ほぼ一直線に示せます。次は13年度の右の棒についてですが、赤色部分が普通建設事業費の支出。その上にある紫色の部分が扶助費の支出です。この赤と紫の合計額についても、点で各年度を結んでいくとほぼ一直線に示せますが、将来的には逆転してしまうようにも見えます。つまり、歳出に対して歳入が不足していくこととなれば、例えば歳出を見直していくか、あるいは歳入を増やしていくという対策は必要となります。関連しますが、上の方に記載の1、歳入についてをご覧ください。次の行、財政調整交付金は、平成28年度より約60億円の減収が見込まれ、さらに深刻な状況となります。

恐れ入ります。この裏面をご覧ください。先ほどは区の一般会計についてでしたが、こちらは介護保険特別会計のうちの給付費について、事業計画を基に棒グラフでお示しました。要介護者の増加等により、平成27年度の489億円が37年度には685

億円と大きく増加します。これらは主に区民の介護保険料負担に影響してくるという問題もありますし、緑色の線で結んでいます区の負担額も大きくなる状況です。区の負担額は、27年度の61億円を、先ほどの一般会計の中で負担しておりますが、37年度には86億円の負担となります。

続きまして資料子⑤の検討シートは、後の意見交換でご使用いただきます。こちらは次回更新されるようなこととお考えいただければと思います。

続きまして資料13、私たちの考える足立区の将来像につきましても、区の良いところと不足するところがたくさんございますので、特に7ページ、8ページ、こちらは将来像の考案の参考にさせていただきたいと思います。以上です。

村上部会長：ありがとうございました。今、特に財政的な部分も含めて説明があったのですが、やはり高齢化関連で支出が増えていくので、これは日本全国どこでもそうですが、やはり高齢者福祉とかあるいは介護等々、あるいは扶助費等々が伸びて、かなり財政が厳しい状況となり、その中で子ども関連にどうやって財政支出を確保していくかということは、ここで直接そういう話題になるか分かりませんが、考えておかなければならない要素だと思います。お金は常に制約があるのですが、とりわけやはり厳しい状況、子ども関連行政に支出をするには、年々厳しい状況になってきているということはやはりあると思います。

あとはそれぞれ今までの出てきた意見であるとか、あるいは中高生が出してきた意見というものが出てきていますので、そちらも参考にさせていただきながら、これから意見交換を進められればと思います。今、説明のあった資料の3、4、5、13についてですが、こちらについてまず質問があれば出していただければと思います。

岡安委員：資料4の棒グラフの右側、オレンジ色のその他なのですが、主だったものを教えていただけますか。

基本構想担当課長：主だったものとしては補助金とか普通の区の行政経費、一般行政経費と呼んでおりますが、人件費も入っておりますし、業務の委託関係その他たくさんございます。

志自岐委員：資料3ですが、社会状況の箇所、大人1人で子どもを産み育てる家庭の割合が高いというのは、何に比べて高いのでしょうか。あとは2番目で非正規雇用率は全体と比べると低いということは、正規で働いている人が全体と比べると高いということなののでしょうか。

基本構想担当課長：検討素材の30ページ、31ページから抜き出しています。子ども・若者白書で、(1)で子ども・若者の現状、子どもの貧困というところから抽出しています。正規雇用・非正規雇用のあたりは、同じ30ページの下にございますが、社

会的自立というところから、いろいろある中での一部抜粋ではございますが、抽出させていただいたところでございます。

村上部会長：いかがでしょうか。

志自岐委員：すると全体というのは、足立区民全体という意味なのですね。

基本構想担当課長：足立区については左側の足立区の現状の方に抽出させていただきまして、社会動向の全国的なものをということで抽出させていただきました。

定野委員：今の質問は、全国はこのようになっているが足立区はないのかというご質問ですから、そのようにお答えするべきではないでしょうか。

基本構想担当課長：足立区の数字はご用意してございませんので、次回以降ご用意出来ればと思っております。申し訳ありません。

村上部会長：ではその点については、また次の会議の時に事務局から数字を出していただければと思います。今説明がありました資料について、他にいかがでしょうか。

鈴木委員：若者の非正規雇用率は全体と比べると低いということですね。検討素材を見ますと 30 ページで、15 歳から 24 歳では 30.8%で、25 から 30 では 28%と下がりますね。でも、これ実感と合わないというか、若者の非正規雇用率が低いのですね。これは正しいのでしょうか。

基本構想担当課長：申し訳ありません。このあたりも次回お調べしてお答えさせていただきます。本日は申し訳ありません。

村上部会長：これは全体が何を指すのかで変わってくると思う部分で、つまり他の世代と比べてなのか、他の地域と比べてなのか、全国的な傾向と比べてなのかというところがよく分からないところがあります。次回事務局から補足説明をお願い出来ればと思います。

他にいかがでしょうか。私から 1 点。資料 4、区の財政見通しについてというところで、扶助費が伸びていてそれが財政を圧迫するということかと思えます。それからもう一つは、普通建設事業費も伸びて財政を圧迫するということなのですが、この扶助費について、扶助費の中でもいろいろあると思うのですが、主にどういった支出が伸びるという見通しでしょうか。

基本構想担当課長：まず扶助費には高齢者福祉とか生活保護費、あとは保育園、子育

てに関するもの、障がい者に関するものなどがございますが、主に伸びていますのは生活保護費や障がい者福祉に関するものです。もちろん国や東京都の補助金もございますが、総額が伸びれば足立区の負担額も伸びていくところでございます。

村上部会長：やはりいろいろと今後厳しい状況になるなということが見えてくるのですが、他にいかがでしょうか。

先ほどの若者の非正規雇用率に関して補足説明が可能ということですか。貧困の方ですね。説明をお願いします。

子どもの貧困対策担当部子どもの貧困対策担当課長：ご質問がございましたが、国では子どもの相対的貧困率は16.3%という数字を出してございます。ただ、こちらは市区町村レベル、自治体レベルではここまでの数字は取っておりませんので、足立区の経済的な状況を示すようなこういった数字は現在はありません。それに近いものとなると、就学援助の率が近いかと思います。

それから相対的貧困率に関しても同様です。国では50%を超える貧困率と出してございますが、足立区ではそういった状況というのは押さえておりません。押さえられないというのが現状でございます。

村上部会長：補足説明ということで、相対的貧困率のデータに関しては今ご説明があったような状況であるということでもあります。他に資料に関して質問しておきたいことがありますでしょうか。よろしいでしょうか。ではまた何かありましたら、意見交換の時に質問をされても結構ですし、次回以降でもかまいませんのでよろしくお願いいたします。それから補足説明については次回とさせていただきます。

4 意見交換

村上部会長：では次第の4に移ります。今日の一番主になる議論ですが、意見交換ということで、現状と将来の課題を、前回の全体会に引き続いて整理をするということになります。紙ベースだと資料の5で検討シートというのがありますが、こちらが3回の専門部会の流れとなっており、課題を抽出して、提案事項と基本理念を次に考えるという手順を踏んで、これは白紙になっているのでこれを今から作っていくことになります。本日は、ホワイトボードを使って、資料子⑤の資料の左半分を、論点整理を行いながら進めていきたいと思います。現状が少し見づらくかもしれませんが、いくつか近い意見は近くに貼り付けてあります。現状が水色ですね。それから黄色が将来の課題となっています。今からこちらを皆様との意見交換で書き足したり移したりという感じで、比較的ビジュアルに分かりやすい形で、現状と今後の課題をまとめていくという作業を進めていきます。意見交換の際には、出ている意見にこだわらずに

全体会でまだ出ていないような論点を出していただいてもいいですし、あるいは今出ているような意見に近い、あるいはむしろ逆の意見があれば、そういうものも出していただいてもかまいませんので、この前に今貼ってあるものに縛られるというわけではありません。

これらをまとめて、最後に意見交換で付け加わっていくと思いますが、こちらについてはまとめたものを次回に事務局から示していただくことにしたいと思いますが、事務局としてよろしいでしょうか。

基本構想担当課長：そのようにしたいと思います。

村上部会長：では意見交換をして、最後にホワイトボードに貼り付けられたものを事務局でまとめていただくことになります。

簡単に今の状況を説明しますと、こちらに出ている意見は全体会やこれまでにさまざまなところで出てきた意見をまとめたものです。近いものをまとめているのですが、左側に六つぐらい貼ってあるのがあるのですが、こちらは高校生の中退、あるいは職業教育や若い世代のサポートといったような問題です。全体会でも出ていましたが、例えば職人のまちなので、高校中退でも活躍出来るような環境づくり、基盤づくりが必要であるとか、あるいは進学以外の多様な進路を考えられるような職業教育が必要であるとか、現状としては水色で貼ってありますが、高校生の中退とかニート・フリーターが多いということで、今後の課題としてそういった高校をドロップアウトしてしまったような若者であっても、活躍出来るようなまちづくり、あるいはそういった世代へのサポートということが一つ結構大きな意見の塊になっています。これが一番多くなっており、今のところ論点として出てきているものであります。

その両隣が三つずつぐらい貼ってあるものがあるのですが、一番左はいかに人、特に若者世代を惹き付けるかということで、例えば担税力のある若者、税金を払う能力のある若者に転入してもらおう、あるいは今現状としては区外から転入してきた子育て世代が多かったり、保育料が安かったりすると若い世代が集まるということで、足立区はどちらかというと社会増が出ているので、比較的惹き付けている方だと思います。しかし周りの自治体で例えば千葉の流山など、子育てのまちというのを打ち出して仕掛けているところもありますから、そういったところにどうやって勝つかなど、そういった足立の周りを取り巻くことも、一番左の論点では考えないといけないと思います。つまり、どうやって若い世代を惹き付けるかというときに、周りの自治体と比べてどうやって足立区を選んでもらうかという論点も出てくると思います。

それから、右側は高校生の若者の問題ですが、そのもう一つ右側が貧困等の問題で、現状で貼られているものを読み上げますと、就学援助は他の自治体より多くなっています。それから、一人親も増加している、あるいは、子どもの貧困とか居場所の問題に取り組む人と行政が結び付いていなかったりします。貧困や居場所の問題に取り組んでいる人と行政が必ずしも結び付いていないのではないかという問題があります。

それから課題としては、北東部の都営住宅には低所得の外国人が多く、学力水準が低下しているといったようなことなど、貧困とかなり密接に関連するような問題も出ているので、やはり子どもの貧困というのがホワイトボードの左側の一番右のところでもとまった課題としてあります。

一番左上は人の力、人の良さを活かす足立ということで、こちらは少しキャッチコピー的なものになります。このあたりが将来像とか基本理念のキャッチフレーズを考えると、一番左の人の力、人の良さみたいなものは、もしかするとあり得るかもしれません。

それから、ホワイトボードの右側を説明しますと、ホワイトボードの右側には、一番左に四つほどまとまっているのが、私が四つにまとめたのですが、学校教育や保育については量と質の両方を挙げています。学校や保育の問題です。現状としては待機児童対策が後追いでは困るとか、学校は三学期制が良いという意見もあるという、これは授業日数の確保とも関連する問題です。将来の課題としてニーズに合ったボリュームを整えていくべきだ、あるいは学力や保育の質の問題が課題であるという指摘があります。これらは一番左側の若い世代を引き入れるというところも関連するテーマなので、つまり待機児童対策がやはり後手に回ると、若い世代はなかなか来てくれなくなりますので、そういった学校や保育の量と質の問題というのが四つ目ぐらいのテーマになるかなと思います。

それから1個ずつシールが貼ってあるのですが、今までと少し違って、親による虐待が多い、親に対する心の教育が必要というご指摘であるとか、あるいは一番右上にあるものを読み上げますと、これはそもそも子ども分野の記述が少ない現状の基本構想の課題というか現状であるということで、これは独立していないからそうならざるを得ないのですが、今回しっかり子ども分野ということの基本構想と、それから将来のあるべき姿のようなものを打ち出していければと考えています。ホワイトボードの関する説明が長くなりましたが、以上となります。

こういったグルーピングが現状として、全体会と中高生の意見等を通して出てきています。こちらについて何か付け加える、あるいは補足的なもので出していただいても結構ですし、あるいは今まで出てきていないような論点で、現状と将来の課題というものを提案していただいてもよろしいかと思います。足立区のそれぞれご事情・実態をご存じだと思いますので、まずは皆様ご自由に出していただこうと思いますが、いかがでしょうか。

河本委員：先日たまたま役員会がありまして、基本構想の子どもに関する分野、役員の中で小学校の会長をやられている方たちの意見を聞いてまいりました。やはり一番多かった意見としては、小学校1年生の貧困の現状を捉えるために現在アンケート調査がスタートしたところでありまして、11月頃には全校向けに実施するというところで、行政から説明を受けました。ただ、やはり現状として、子ども世代を抱えるお父さん・お母さんとしては、特に足立区は、私も子どもの頃から足立区生まれ、足立区育ちで

すという方がかなり多く、地元根付くというとても良い面がある反面、やはり足立区というと頭が悪いんでしょ、貧乏なんでしょ、と区外から思われていると私たち親の世代も思っていますし、今、この貧困という言葉が踊りすぎていて、既に小学生が、「私たちって貧乏なの？」「私たちって学力が低いって先生も近所の大人も言っているけど、足立区ってそんなに馬鹿ばかりなの？」と実際に子どもたちが、新聞などにも足立区の貧困対策と大きく出ていますから、これはいかながなものかという意見が大多数でした。

それから先日、ここの今の資料子③の黄色部分の一番右下になりますが、教育大綱ビジョンを策定というところがあります。この案に対する意見集約という形が教育委員会の方で行われ、それが小学校 69 校の開かれた学校づくり協議会会長に向けて、この案に対する意見をまとめてくださいという資料がありました。出来ればそこにも貧困に絡んだ内容や、貧困と教育を結び付けるようなこれからの施策というのが書かれた資料だったので、この席にもこの教育大綱案というのがあると分かりやすいと思いました。そこでもやはり皆さんから出た意見は、貧困という言葉が悪すぎるという意見が大きかったので、議論は分かりますが、どうもこの言葉を、教育と貧困を結び付けるにしても、子どもの頃の教育をしっかりされていれば、要は1人で生活するための最低限の学力を付けるという意味合いは私たちは分かっているけど、やはりこの貧困という言葉がかなり足立区民には失礼ではないかという大きな意見があったので、大きくはそういうところで見えていただきたいなと思います。何とかこの貧困というイメージを変えていただきたいと思います。

早木委員：今河本さんが言われたように、私は教育と貧困というのは非常に関係があると思います。やはり教育に力を入れないと、貧困は改善出来ないと思います。1か月ぐらい前でしたか。朝の番組を観ていて、ちょうど足立区の特集をやっていたのですが、足立区がワンツースリーみたいなことで頭が悪いと。今言われたように貧困や、一人親家庭が多いということをしていて、それはやはりつながっていると思います。そういうことから脱却するために教育に力を入れるのが大事ではないでしょうか。

また、前回、志自岐委員がいいことをおっしゃいましたが、職人のまち足立区ということで、もう少し早い時期から職業教育というのをやって、子どもたちがやる気を持てば自分の道がもっと広がると思いますし、落ちこぼれない対策をすればその子たちの可能性も広がると思います。そのような教育について、10年前の基本構想を見ても、教育に力を入れるという言葉は全然ないのですが、しかし足立区では取り組んでいることは取り組んでいますよね。それをもう少し力を入れてアピールして、問題点をはっきりさせることが大事だと思います。

村上部会長：どうもありがとうございました。今お二人からの意見というのは重要な論点であると思います。レッテル、あるいは学術用語で言うとスティグマとかいうの

かもしれませんが、そういった貧困という言葉が出ることで、かえってそのようなものを自意識の中に埋め込まれてしまうというのは、やはり良くないところであると思います。その貧困問題で今まで出ていなかった論点を提示していただきました。これについてももし何か他にご意見があれば。今出てきた貧困とか教育、それをどういうふうに呼ぶかとか、どう変えるかを含めて、この点について何かご意見があれば加えていただきたいと思いますがいかがでしょうか。

定野委員：その前に、足立区が今年は子どもの貧困対策元年と銘打ってやっているという点についてはきちんと説明しないといけないと思うのでしてくれますか。スティグマの件も整理されているはずですから。

子どもの貧困対策担当部子どもの貧困対策担当課長：今教育長が申し上げたように、子どもの貧困対策元年ということで、これまで足立区は貧困の連鎖、それから学力・治安・健康という四つのボトルネックを抱えてまいりましたが、まずは貧困というやはり救貧、言い方は悪いのですが、経済的な状況が悪い方を救うというイメージで捉えがちでしたが、そうではなくて予防する、それから連鎖を断つというところに力を入れて今年度から始めてまいりました。確かに、調査の件は委員からご発言がございましたが、貧困調査ということで取り上げられ方がどうしても貧困の方がクローズアップされてしまいまして、区民の皆様はご不満に思われた方もだいぶ多いと思っております。

ですが、子どもの貧困対策を進めていく上で、まずは実態把握が重要だと考えております。これは貧困の家庭だけを取り出しても意味がなく、全体を調査して、どういう状況であるかというのを把握して初めて、ではどういう対策が打てるのかというような、足立区としてどこに力を入れていけばいいのかがはっきりしてくるかと考えております。そういう点では、この調査についてもそうですけれども、子どもの貧困対策全体について、区民の皆様に説明していくような機会を十分設けていかなければいけないと考えております。

それからスティグマの話が出た中で、こちらもやはりこれまでやってきたこと全部がそうですが、この事業は貧困を救うためだけではないというのはもちろん、皆さんどこかで分かっているんじゃないかと思います。ただ、そこに来ている方が、おまえは貧乏なのかというようなことがないように、貧困対策自体を未来につなぐ足立プロジェクトということで、少し名前を変えて、このまま自分の夢を諦めることなく、未来にその可能性が広がっていくような計画にし、対策をしていきたいと考えております。現在事務局では、これから徐々に広めてまいりたいと考えております。ただ、実際に行わなくてはならない貧困対策という部分が見えづらくなるというご意見もありますので、そのあたりは十分にご説明をしていきたいと思っております。

村上部会長：どうもありがとうございました。今の点について何か質問とか意見があ

りましたらお願いします。

定野委員：今ご説明があったように、非常に政策として分かりやすいという点で、区としては貧困という言葉を使っていますが、今お話をしたように、それだけでは非常にイメージが悪いだろうということが分かっている、何とか違う方法はないかということ、今検討しているということです。ただ、教育大綱についてはかなり煮詰まってきたいて、二つの特徴があって、貧困の連鎖を断つという、教育だけで断つわけにはいきませんが、その一つだということをはっきりさせたいということ。それから、乳幼児期・青少年期、そして成人期。成人期に大人たちが子どもの成長に関わるような活動をしようというサイクルをつくるという、この二つが特徴になっています。こちらについては、区長と教育委員との間で今議論をしています、概ねその方向でまとめさせていただくことになるかと思います。

ただ、基本構想・基本計画に貧困という言葉を使うか使わないかは、ぜひここで議論をしていただいて決めていただければいいかと思います。

村上部会長：ありがとうございます。今ご指摘があった点も重要で、貧困という言葉はどう扱うかというのは、この部会として非常に重要なテーマになりそうな気がします。現状や事実としてこれはあるので、やはり私自身も正面から向き合わないといけないと思う反面、やはり将来像とか基本理念の中にそういった言葉を入れるということが果たして適切なのかどうかというのは、非常に迷うところであります。やはり将来に向かってというところでは貧困という言葉は使わずに、少し前に学問の世界で少し出てきた言葉として、人生前半の社会保障とか、あるいは学ぶ機会の保障とかこれは教育学でもよく使う言葉ですが、そういった言葉を将来に向けては使うなどが考えられます。ただ、どのように基本構想の中に貧困問題を表現として入れていくかということは、やはりここでおっしゃる通り、議論した方がよい問題かと思います。

志自岐委員：子どもの貧困のところで、一人親の問題みたいなものが左上の方にありますが、要は子どもの貧困というのがやはり一人親家庭。特に女性、いわゆる母子家庭の問題であるというようなとらえ方は、これは社会一般的に広く認識されている問題だと思います。そのような意味で、一人親家庭に対してどうするというのが、今はないのかなと思われま。一人親の家庭が足立区では多いところにも書いてありますが、大人1人で子どもを養育している家庭の割合が高いというのは、何に比べてどのように高いのかが不明なのですが、おそらく家賃が安かったりして、お金がなくても住みやすいので、そのような人にまさか来てはいけないと言うわけにもいかないわけです。その点をどうするかという難しい根本的な話なのですが、やはり加えておくべき問題だと思います。

村上部会長：非常に鋭いご指摘だと思います。私も一人親の問題については、どこま

でどのように入れるかは議論があると思いますが、貧困や教育の問題と深く結び付いているものであり、論点としてかなり重要なものだと思います。

野辺委員：確か前回、10 年前のテーマが生きる力というものだったと思います。そのテーマを出してきたわけですが、どのような結果というか、どのように子どもたちが変わってきたのかというところが検証されているのでしょうか。もしされているのであれば、どのように子どもたちは変わりましたというところを示していただくと、今お話をしていることもちょっと生きる力と関係があるのではないかと思うのですが。

村上部会長：今の質問は、おそらく前回の基本構想についての検証を、特に生きる力についてどうなっているのかということかと思いますが、事務局からはいかがでしょうか。

野辺委員：その生きる力というのが、少し間違った方向に来てしまっているからこそ、生活保護の不正受給であるとか、あまり良くない結果を生んでいるのかなとも考えています。

村上部会長：では事務局からお願いします。

基本構想担当課長：教育の面での生きる力というところでは、小学生が学力を習得しまして社会に出ていく。そのために習熟度別授業や補習とかそういったことをやっていますというところを、検討素材の 15 ページで小学生の基礎学力の向上や、不登校対策のさらなる実施といったところで取り組んできたとともに、成果を挙げてきました。そういったご報告をしておりますが、教育以外の部分でよろしいでしょうか。

福祉的なところ、生活保護の自立ということでは、現在生活保護受給率が増えてきておりますが、就労指導や生活保護に逆走しないような対策や、そういったことを区では実施してきておりますが、成果については生活保護受給世帯が多いところでは平行線かなというところで進んでおります。

岡安委員：私が言うのも変ですが、野辺委員が聞きたかったのは、基本構想の中にはたくましく生き抜く力とか、目指すべき言葉そのものは入っていないのですが、やはり家庭教育の重要性などというのがありますので、先ほど言った母子家庭の支援などもそこに入ってくると思います。たくましく生き抜く力として、学力も大事だけれども、それも一生懸命育ていくのだと言っているのに、それがどのような形で反映されているのか分かりにくいということも含んだ話だと思います。今言った基礎学力の定着とは別に、たくましく生き抜く力が大事だと区長もおっしゃったことがあります。その部分というのはどのような施策でどのように反映されて結果が出ているの

かという話ではないかと思いますが、今の説明ではよく分からないですね。

そもそもたくましく生き抜く力というのを文言通りに採ると、学力はあまり関係ないと思います。たくましく生きてくればよいみたいに捉えられますけど、でもそうではないという区長の説明もありました。全般的に分かりにくい言葉ではあるのですが、人間力の向上というのが前回基本構想にも入っていますが、人間力を育むためにたくましく生き抜く力という言葉に変えたのか、どのように今取り組んでいて、どのような成果が出ているかというのが示されると、またこの議論にも使えると思うのでよろしくお願いします。

基本構想担当課長：具体的には、基本構想を実現するために基本計画なり、各行政の分野別計画などで目標を立てて進めてきております。先ほどは一部の例だけで申し上げて申し訳なかったのですが、基礎学力の定着もございましたし、乳幼児の部分からお子さんが健康ですくすく育っていくための施策もございます。また、逆に親の側から児童虐待をなくす、養育困難をなくす施策とか、お話にもございましたが、一人親家庭の自立を支援するそういったことも、今どこまで達成しているか、どこまで成果を挙げているかというのはかいつまんで申し上げられず申し訳ないのですが、そういった取り組みはやってきておりますので、その成果については次回お示し出来ればと思っております。

定野委員：前回の基本構想には、10年前のものですが、足立区は教育環境面でも多くの問題が指摘されていると思い切り書かれていて、そこには地元の学校に進学する人は多いけれども、高校や大学の進学率は最も低い水準にあるとか、長期欠席の出現率も多いとか、学力も低いという多くの課題があるということで、区民の学習環境の不十分さをかなり訴えていて、学校教育に対する信頼も低いのだということがずいぶん書かれていました。そうすると、開かれた学校教育を始めとして、地域で支える学校、それから、当然ですが教育に携わる者の努力によって少しずつ改善されているということは言えると思います。ただ、それが十分に満足しているのかどうかという点ではまだまだであるということです。ですから、かなり前の基本構想では辛辣に書いてあります。私が当時教育長であれば、これほど書かれては困るということが書いてあります。でも、今はそういう状況ではなく、少しずつ良くなっているというのは、多分数字で出せると思いますので、そこは少し自信を持ちたいなと思っております。

志自岐委員：たくましく生きる、生きる力のようなところで言うと、中退者のすぐ下にニート・フリーターが多くなっているのは、まさしく実は生きる力が育たなかったということです。この多い少ない、高い低いとかいうのは、単純に出さないで何に比べてどう多いというのを言ってもらわないと、本当に意味が分からないのですが。そのような意味で言うと、足立区は一時期ニート対策をかなりやっていたのですが、フリーターの方はどうなのかなというところが、やはり生きる力ということと、学校力

の向上や学校で一生懸命勉強させることももちろんすごく大事だったのですが、結局フリーターになってしまったということになったら、本当にしょうがないなというところがあります。

ニートとフリーターは基本的に違うものだとは思っており、一緒にしてはいけない言葉だと思っています。フリーターは働く意思があって、自分で何とか生きようとは思っているけれども、仕事がなく日雇い派遣のようなところに行くようなイメージです。ニートは引きこもりに近い感じで、家庭の事情にもよるのですが、口が悪い人はニートになっていられるだけいい身分だというような言い方もするので、ニートとフリーターは社会的に言うと全く別物だと思います。

村上部会長：今、ニートやフリーターの問題が出てきて、これもやはり貧困とか生きる力などというところに深く関わる問題なので、やはり基本構想の中で扱ってもよいような、重要なテーマだと思います。

今、左側に議論が集まっているので、もうしばらくこちらの方で、あるいは似たような別の論点でもよいのですがお願いします。

渡辺委員：先ほど教育長に補足をしていただいたのですが、この10年間で足立区は本当に良くなってきたという実感があります。ただし、これはこれからの10年、30年後の足立区を見据えた基本構想をつくっていくということでもありますので、前回の基本構想審議会の中では辛辣なご意見があったという意味でも、ぜひ議事録を開示していただきたいと思います。それを踏まえたこの10年の中で、資料子③の中に、基本構想に対する取り組み等についての記載があり、どのような効果があったのか検証結果を教えてほしいというご指摘があったのはその通りだと思っています。

それから先ほど、さまざまなことについての個別的な議論については、やはりこのような足立区になってほしいという基本構想が文言になったときには、分量として多いか少ないかそれは別にしても、足立区が良くなるために、子どもに対して、家庭に対して、子ども部会としてどのような施策を盛り込んでいただきたいのだという視点もぜひ議論をしていただきたいと思います。なぜかというと、例えば会長が中央教育審議会におられて、0から3歳児の義務教育化ということについても多分お話をされているでしょうし、それは欧米諸国では0－3歳児にかかる教育費の多寡によって、その後の子どもたちの学力であるとか、生活の問題とか、コミュニケーション能力というものが高まっていくという話がありました。一方で、足立区全体では財政も考えなければいけない。それで、女性の社会進出で、子どもを産み育てやすい環境をつくるためには、当然のことながら待機児童を減らしていかなければならないし、そのために区がどこまでやるのが出来るのかといったことを後ほどの意見交換では分けて出していきたいと思います。

それから事務局にお願いしたいのは、先ほど足立区の区東部については、特に学力の低下や、外国籍のお子さんもいるということについてありました。そうしたことに

については、せっかく足立区を 13 グループに分けたさまざまな資料があると思いますので、それをご提示いただきたいと思います。

村上部会長：ありがとうございました。今ご指摘があった資料などについて、もし議論に必要なものがありましたら、次回以後の会議で資料として取り上げるということも検討してよいと思います。それから、進め方については、現在貧困と高校生の問題に集中しているのですが、少し広げて、具体的な施策を基本構想に盛り込むのは実際にはなかなか難しくなったとしても、ここで議論しておくということは、やはり基本計画とか事業を立てる上で意味があることだと思いますので、そういったことも含めて議論をしていただいてももちろん結構です。

小林委員：基本的に皆さんの議論が非常に沈んでいる感じがします。あくまでも 30 年後の足立区にバラ色の未来がないと、子どもたちも元気にならないと思います。現状は確かに課題がたくさんあると思うのですが、それを払拭するような足立区の良いところ、これから伸ばさないといけないところ、今までが良くて受け継いでいるところという観点を持っていかないとはいけません。その負の連鎖をどうするかというのは個々個別の課題であって、未来に向けてどんな足立区、子どもたちがどんな未来を描くかというような観点を持っていただかないとなりません。足立区では子どもたちが今みんな萎縮しています。本当にそれは思います。どこかに進学するにしても、足立区だから点数が低いんでしょ、というような、特に中学生は高校受験の時に、足立区から来たら点数を下げられているのではないかと、といった疑った見方をする子たちが非常に多いです。そうではなくて、足立区はここが優れているのだ、やはり自分は足立区というすばらしいところにいるのだという、もっとポジティブな意見をしていただかないと、何か進んでいかない気がします。

30 年後に同じようなネガティブな課題をずっと背負ってやり続けても仕方がないという気がします。なので、否定的な意見で申し訳ないのですがよろしくお願いします。

村上部会長：ありがとうございます。確かに非常にごもつともな、非常によいご意見でした。特に次回将来像や基本構想の話をするときは、やはりどのように明るい足立区をつくっていくかという視点でポジティブにというのと同時に、実は現状の話が出ていますが、良くなっているのだと私も外から見ていて思います。例えば北千住周辺などは非常に人気が出ているまちです。そこまで言うほど悪いのかなと外からは思います。もちろん住まわれている方は、それはそれでいろいろな課題があるということだと思うのですが。

例えば、現状の中にポジティブな面を書き込んでもよいのではないかと思います。もちろん問題点・課題を書き込む必要はあるとは思いますが、基本構想の中でも例えばこの 10 年で足立区はこんなところが良くなった、こういうところが向上している

など、そういった面はむしろ他のところよりもポジティブなところが多いような気がします。そういったところも含めていけばと個人的に思いました。

定野委員：そういった意味で言えば、先ほどご紹介した前の構想からすると、千住に5大学の誘致というのは、まさに文化活動をもっと活発にして、高等教育から研究機関を積極的に誘致しようというのが実った好例だと思います。

志自岐委員：地域をどのように良くしていくかというときに、例えばマイナスをプラスにするというのと、プラスをさらに大きくするというのと二つもちろんあるわけです。これまでの区政は、ワーストをいかに減らしていくかという観点でやられてきていたので、ここでも現状としては、あるいは政策的にも、ワーストを上にする施策が中心課題として、治安にしろ貧困にしろ学力にしろ、足立区は23区で下から何番目だといった観点があって、それを何とかしようというのでこのような形にはなっており、もちろんその成果もすごくあり、マイナスがプラスまでは行かないかもしれないけれども、かなり緩和されて治安の悪化も前に比べれば良くなってきているというところがあるので、どうしても議論がそっちに行ってしまうのはしかたがなかったのかと思います。

やはりあくまでもマイナスを減らしていくという意味で、今暗くなってしまうと言ったのですが、現状と課題を取りあえずさらっていき、この現状と課題をさらに10年後にはよい状態にしようということなので、課題がマイナスとなるのはしかたがないかなというところは、議論の方向としてはありだと思います。だから、少し我慢してもらいたいなと思います。

あともう一つ全く別な話なのですが、実は最近足立区に新婚で来た女性がいて、千葉から西新井かそのあたりに移ってこられたのです。するとネットで見たら、子育てしやすいまちになっていたと言うのです。え？っと思って調べてみました。そうしたら区ではなく町単位で4番目。東京近辺で4番目に西新井が挙がっていたのです。治安が悪いというイメージがあるけれども、このあたりはかなり治安がよいということです。しかもギャラクシティなどがあって、子どもが遊んだり教育をする場が多いので、西新井はとても子育てしやすいまちだということを、不動産会社でやっているランキングで挙がっていました。だからそれは区がやったことがいいのか、自然的に西新井開発が良かったのか分かりませんが、ただ私としては今までずっとマイナスの赤字を持っていたので、うれしかったです。

鈴木委員：私も足立が大好きで、ホッとします。ここで暮らしているからかもしれませんが。それで実は以前、就学援助が日本一多いというのに端を発して、低層社会足立のようなことがマスコミでも取り上げられて暗いイメージになっていたときに、子どもたちも暗いといった話を書いてあったのですが、そのときも子どもたちは元気だったし、今でも周りの子どもを見ていても元気だと思います。そのため、足立の子ど

もただだから弱いとか後ろめたいとかはないのだと私は思っています。

ただ、もう一つ今回貧困に目を向けたというのは、これはよいことだと思っています。やはり貧困な家庭にも子どもはいるし、そこへの対策はやらなければならないかもしれません。例えば私は議員としていろいろな相談も受けます。所得は低いかもしれないけれども、対策が必要になってくる人ばかりではないけれども、中にはどうしても対策が必要な人がいて、そこに目を向けるというのは大事です。これを基本構想でどのように表現するのかは分からないのですが、対策として乗り出しているのはよいことだと思います。

あともう一つ言うと、ただ対策としては、子どもが貧困なのではないですよ。子どもの家庭、社会が貧困とであって、そのような点では底上げというのでしょうか。全体を底上げ。足立区全体を元気にするというか、そのようなことが一番の対策なのかなと思います。

それからもう一つ、子どもに即して言うと、例えば教育の充実などがあるとは思いますが、個人的な持論でもないですが、足立区はやはり緑が今でも多い中で、もっと多くなるようなまちにして、土いじりや、一番いいのは田んぼに入って、泥の中に足を突っ込んで、あれが脳を刺激するという学説もあるのですが、感性を味方にしてそれこそ先ほどお話が出たような、生きる力に結び付くようなことを持論として持っているのです。そのようなイメージです。

それから、職人のまちと言いましたが、ものづくりが大切かなと思います。そのような中で仕事をする、ものをつくっている姿を見ながら育っていくといったこともあるし、自分もものづくりに取り組んでいくことで、ある意味学力と結び付ければ学力も伸びていく気もします。やはり詰め込みだけではなく、そのような足立区になってほしいなと思います。そのような点で長く住んでいたい足立、住んでみたい足立になります。今でもかなり魅力があって、いろいろな人が来ているような状態になります。

ただし、担税力のある若者を転入させるということですが、そういった人だけおいでと言っても難しくて、極端に言えば若い人にも親はいるわけだから、高齢者も安心して住めるまちでなければ、若い子は来ないかもしれません。そんなことも含めて子どももますます元気になっていくような気がします。

子どもの貧困ということであれば、確かに子どもの貧困対策がありますからそこに行ってください、来てくださいと言っても多分本人は行かないと思います。それはそうですね。そこは表現なり言葉として少し難しいのですが、そういう実態もあると思うので、対策は大事です。

岡安委員：新たな視点ですが、ご存じの通り特別支援教室も始まります。発達障がいを中心とするというか、情緒障がいを中心とした発達障がいに関しては、それだけではないのですが、7%から10%いると言われていまして、足立区も全国的にも増えています。そういう中で、足立区も相談体制や早期発見、療育の体制は出来ているも

の、人数が多くなっていく割に充実というのはまだまだ遅れているのかなと思います。多分障がい者は子どもに限った話ではないので、子ども分野だけではないと思いますが、特に教育に関しては国がそのように立てられている以上、教育に関して例えばやはり障がい者・障がい児の教育、また情緒障がいの教育というのは、少しそういった視点が入った方がよいのではないかと考えております。

もう一つは、前回配られた資料ですが、重点プロジェクト事業別評価の反映結果というもので、スマイルちゃんのような絵が描いてあるものですが、子どもの施策を全部見たら、庁内評価は区役所側が付けていますからあまりこちらは評価していないのですが、区民評価の方で決して悲しい顔にはなっていないのですが、にっこり笑っていないのが二つだけあります。一つは就学前からの教育の充実を図り学力の向上を目指すというところの幼児教育推進事業。もう一つが体験学習の推進事業。この二つがまだまだ充実が十分ではないのではないかとという区民評価が入っています。やはり教育の分野が多いのですが、一つは教育と言っても小学校に入る前で、幼児教育として小学校以上の体験学習です。このあたりをやはりしっかりと足立区は取り組んでいく必要があるというのが区民評価の結果で書かれていました。これは個別具体的な話なので、基本構想というよりは基本計画の方の話かもしれませんが、特にこれから教育の議論になったときには、このような分野をしっかりと押さえていかなければいけないと思っています。

それで、先ほどの話に戻りますが、障がい児という視点は少し反映出来ればというのが願いです。

定野委員：非常に重要な点で、私どもとして幼児教育というのは重要だと思っています。小学校に入った時点でスタートラインが違っているところがありますから、今私どもは5歳プログラムといって、小学校に上がる前の子と、それから意欲創造プロジェクトといって、要するに何かを勉強するというのではなくて、勉強する前の段階、何か知りたい、何か遊びたい、というのをどんどん積み重ねていくことをやっています。それは目標値が高いのでなかなか満足いく結果までいっていないというのが一つ。

それから体験学習というのは、これからは机の上で勉強するだけでなく、意欲という話をしましたが、実はお父さんとお母さん、あるいは学校の先生としかしゃべったことがないという子どもが多いです。なので、もっといろんな大人を、昔はおじさんやおばさんがたくさんいたわけですが、今はいともあまりいないので、他の家のことを知らない。もっとそういうことを知るような体験。自然教室もよいのですが、そうではないいろいろな体験をもっとさせなければいけないというのが大きな課題だと思っています。

それから今の障がい者の教育ですが、それを担う人材が現在非常に不足していると思います。もう一つは、ほとんどの先生が特殊教育を学んでいない状況にあります。そのあたりはやはりやっていかないと、どこのクラスにも情緒障がいの子だとか、あるいは発達障がいがいる状況が普通だということからスタートしなければいけな

いということで、これも大きな課題だと思っています。

河本委員：今いただいた特別支援学級の話の内容ですが、たまたま私も主任児童委員という立場をPTAと兼任でやっていることもありまして、なりたての頃からすごく不思議だなと思っていたのは、教育の場には学校という一つ孤立した村のようなイメージが強くあって、地域、家庭、学校が三位一体とはよく言いますが、そこになかなか福祉が入り込めていないというのを感じます。〇〇小学校という特殊な村のようなイメージが、福祉の立場から見るとあります。例えば今回、スクールソーシャルワーカーが3名足立区には入りましたが、まだまだ局所的に試している状態ではあります。そういった方たちのお話を聞いても、やはり昔からある普通の公立の小学校に第三者機関からポンとスクールソーシャルワーカーが入ったところで、なかなか受け入れるという姿勢が学校そのものになかったり。例えば、主任児童委員や民生児童委員が地域にこんなにたくさんいるのに、学校で困っている児童、この家庭はどうなっているのだろうと思った児童が、そこに手を差し伸べてくださいという配分が強くなってほしいのですが、基本的には児相に電話を入れると。特別な場合に限り児相に電話を入れる。そして結果を教育委員会に報告する。そこで終わりとなっています。基本的には、やはり担任の先生が不登校の児童のお家に行ったり、電話を掛けたり毎日やっていることがあるわけです。でも、子どもも発達障がいであるとか、一人親家庭にしても、先生だけが頑張っているでも解決出来ないことが家庭の問題が非常に大きいということです。家庭に踏み込んでいく場合に、教育の場と、せっかく足立区は福祉がとても充実している区なので、足立区全体の形として強いパイプや連携が素晴らしいというところが明確に見いだしていけると、もっともっと対応が素早くなったり出来ると思います。

定野委員：昔のような閉鎖的な学校ではないと今は思います。他の方が来るのを非常に嫌がっていた時代があったと思います。それは孤立した時代でしたが、今はそれでは教育が立ち行かないわけです。いろいろな方と交流をしながら、いろいろな人の力を借りて、今学校が成り立っているという状況ですから、確かに学校によって差もあるので、ぜひそういったお声をいただいて直していきたいと思います。今は決して誰かが来ると嫌だという学校はないと思いますが、差があるのは確かです。逆に私どももとしても家庭訪問をしたりしていろいろなことはやりたいのだけれども、実は家庭訪問を全戸でやっていましたが、今は2分の1、3分の1になっています。これもやはり家庭側の負担が大きいからという理由であるわけですが、少し違うのではないかと思います。ですから、これは非常に現実的な話ですが、本当は手を出したいところに手が届いていないという状況は、ぜひ覚えておいていただきたいと思います。

野辺委員：いろいろ会議をやっているとして、学校の先生方が、民生児童委員が何であるかというのをほとんどの方がよく分かっていないということが去年の会議で分か

りました。やはり協議会としまして、先生方にきちんと私たちの役目を分かっているだけで、もっと利用していただけるように広めていかなければいけないと考えております。

定野委員：あまり一緒に飲んだり食べたりするのは駄目なのでしょうか。これは不思議だなと思っていますが頑張ります。

村上部会長：今までの話は、教育にさまざまな方たちが、これは福祉との連携もそうですし、さまざまな方が学校に関わって教育を支えているということも基本構想の一つの重要なメッセージとして、確かにいろいろなところで出てくる言葉ではあるのですが、やはり足立区のスタイルとしての社会総掛かりという国の政策ではありますが、そういったところを入れていければよいと思いました。

渡辺委員：私も学校のあり方というのはこれから大きく変わっていったらよいと思っています。特に思っているのが、これからの足立区では、小学校の改築や建て替えをしたり、統廃合をしなければならないようなときには、ぜひ想定される教室数を大きくしていただきたいです。地域の方々や子どもたちがそこに幼稚園や保育園の代わりになってもよいような余剰空間や、地域の方々が会議に使えるような空間などです。もちろん足立区にも住区センターがあって、そこである一定の年齢から上の方々は、そこを趣味の場であるとか、地域の交流の場に使われていて、学童が行われていたり、さまざまな催しが行われていますが、地域コミュニティが希薄化しているときだからこそ、文化圏が一緒の小学校単位でまずいろいろな各世代の方々がそこに集えるといった学校づくりを目指していただきたいと思います。

早木委員：いろいろな人が関わるという意味では、子はまちの宝だと思います。そのように考えると、10年後、30年後というのは、子どもは大人になっていますし、結果がきっと反映されていると思います。私が観たテレビの話なのですが、足立区では一人親家庭では塾に行かせられないから、大学生のボランティアを募って勉強を見てもらうということでした。それで成果が上がったということなのですが、それが引き続き行われているのか分かりませんでした。財政難でもありますし、みんなで子どもを育てていくという観点からも、ボランティアみたいなものをもっと活用し、声掛けをしていけば違うと思います。

定野委員：今、公的には「はばたき塾」といって、100人ぐらいの子どもを、成績がよいのだけでもいろいろな事情で塾に通えないので、要するに進学校に行けない子どもを塾に通わせるということをやっています。100人という定員があるので、それに漏れた子どもたちも補習塾といって、その予備軍もちゃんと行けるという制度があります。それから今おっしゃったテレビは、おそらく地域学習センターなどで指定管

理者が無料で大学生を募ってやっているものです。これも続けていかれるでしょうし、我々も続けていくつもりです。ただ、他にも実は土曜日の授業の応援で大学生のボランティアが入ったり、開かれた学校づくり協議会が常に学習会をしたりということで、かなりの学校でいろいろなことをやっているのは確かです。そういった資源を、お金を掛けるだけではなくていろいろなことをやろうとしています。そのために千住に5大学ありますが、実はそういった学生もかなりボランティア参加をしていただいています。これは大きなメリットだと思って、これからもそういったことを活かしていきたいと思います。

それから、授業のボランティア、あるいは補習のボランティアにお父さん・お母さんたちも入っているところがたくさんあります。そのため、そのような総合的な力で子どもを支援していきたいなと思いますので、ぜひご協力をいただきたいと思います。

村上部会長：現状として連携というものは、少なくとも10年前に比べると相当いろいろなものが出てきているというのは聞いていて思いました。まだ時間は10分、15分ぐらいありますが、今出てきたものでもよろしいですし、そうではない別の論点でもかまいませんので自由に出していただければと思います。

志自岐委員：今、学校に福祉が入り込めない、福祉というのは障がい者福祉なのかなと思うのですが、そういったことが挙げられました。例えば生活保護の家庭の子は、保育園などに行くようなことも多いと思うのですが、そういったこともやはり福祉や保育、あるいは学校教育などが連携し、さらに外の連携もありですが、庁内でも情報共有のようなこともし、子どもが生まれたときからずっと見ていくといった形は、もちろんサークルみたいなのがあるからやっているとは思いますが、庁内もいくつも部があったり分かれたりしているので、基本的には庁内の連携のようなものとして、横断的に子どもを見ていくという姿勢が必要だと思います。

定野委員：おっしゃる通りです。例えば子どもの検診のデータが保健所に行っていないくて、その後の指導に生かされていないそういったことがありました。そのようなことを一つずつ突き付けるようにやっていて、0歳から5歳のそういった状況が小学校や中学校に伝わるようにするべきです。実は高校にどのようにして伝えるのかというのも一つ問題になっています。それから0歳の前もあるのではないかとするので、お母さんが妊娠したときからいろいろなものが必要ではないでしょうか。栄養状態はどうなっているのか、あるいは家庭環境がどうなっているのかということなど、やはりやっていかないと、子どもを育てるところにつながらないのかなと思います。

もっと言えば、地域で支援して子どもたちが良かった、これで学校に通えるようになったなどという子どもが大人になったときに、自分たちがどういう経験をしてきたのかということが、多分また子どもに返るのだらうと思いますので、非常に重要なご指摘だと思います。

村上部会長：足立区は保育の協議会をしていて、そのような点ではそれほど多くないので、全国的に見て、そのあたりは特徴的なのですが、もちろん課題も残っているとは思いますが。

渡辺委員：現状で待機児童といっても、空いている保育園や幼稚園も実際にはあって、それでも行きたいけれども通わせられないというのが、物理的な時間的な制約があるためというのが現状としてあります。保育園や幼稚園の経営者の方々からは、駅をサテライトにしてお母さん方が出勤をするときに、そこで乳幼児をバスに乗せる。それで、空いているところに回ってくれるようなことをやれば、ずいぶん待機児童も減るのではないかと思います。そして園を経営されている方にとっても一石二鳥になるのではないかという話も聞きます。そうした下地があるかをお伺いしたいと思います。

定野委員：4月に就任してすぐ指示したのは、とにかく見てこいということです。流山と墨田区を見に行かせました。いろいろ問題もあるのですが、そのようなシステムはありだなと思いました。いくつかの課題はクリアしなければいけないとは思いますが。例えば、0、1、2歳は動かさません。そうすると、年中以上を動かすときにどうするのか、あるいは集まる場所が必要だとか、それをどのようにするなどいろいろあるのですが、そういったところはクリアしながら考えていかなければいけないと思います。

それから、作っても作っても待機が出るというのは、若い方が実は入ってきているからなのです。これはすばらしいことであって、先ほど若い人が入ってくるような足立区ということでしたが、既に入ってきているというところが待機児童を生む最大の理由なので、そのあたりはきちんと考えていかなければいけません。そのためには今おっしゃったそのような対策もきちんと採らなければいけないと思っています。

渡辺委員：それから5歳児プログラムのことについてと、保育所についてお話をしたいのですが、5歳児プログラムがかなりよい成果を生んでいると思います。私は3歳児、4歳児プログラムをつくっていただきたいと常々申し上げてきました。なぜかというと、保育士たちの負担を減らすということと、保育補助という形であるならば働くことが出来るという方も潜在的にたくさんいらっしゃると思います。その方々が保育園の中で働きやすいためには、3歳児、4歳児プログラムを設けていただきたいということが一つです。

それから、先ほど岡安委員から指摘があった重点プロジェクトの施策評価の中に、コーディネーショントレーニングのことも書かれていて、昨年いただいた小学校1年生の運動能力の数字が、これまでと比べてぴょんと跳ねて良くなっている数字が多くありました。それは多分コーディネーショントレーニングをやってきた結果だと感じました。それについては、足立区全体の中でもさらに拡大をしていていただきたいですし、家庭の中でも出来る簡単な方法もあると思いますので、そうしたことと二つ

あわせてお願いしたいと思います。

定野委員：先ほど小さいうちからというのは、知力だけではなく、体力と気力・意欲もそうです。意欲・体力・知力が揃っていないといけないというのは、ご指摘の通りだと思いますのでしっかりやりたいと思います。また、公立保育園だけではなく、私立の保育園・幼稚園にもこれを広げていかなければいけないと思います。しっかりやっている園もありますが、そうでないところについては進めていきたいと思います。

志自岐委員：ニーズに合った保育を整えていくべきというのがあって、確かにニーズとしては、いろいろな子どもがいて、もちろんいろいろな親がいて、一時保育をはじめ、保育のバラエティがこれからもっと増えます。待機児がどうこうというのはまた別の観点になるのですが、一時保育、病後児保育、あるいは発達障がいの子どもの保育、障がい児の保育、あるいは外国人の親の保育など、本当に多様な子どもがいるわけです。例えばそこで、公立の保育園が負担をしてでもやらなければいけないようなことであつたり、あとは民間の保育園で出来るものというものであつたり、あるいは保育園のタイプという意味でいうと、認可や認可外、小規模などといったものなど、バラエティが必要になると思います。

定野委員：保育園というのは地域性が一番にあって、それからどれぐらい保育が必要な状況に切羽詰まっているのかというこの二つだと思います。なので、今お話があつたのは、もっとさらに進んで、多様性をどう捉えるかという点ですが、我々として、発達障がいにも対応出来るとか、あるいは外国人でも対応出来るというのは理想です。それはやはり公立保育園が担っていくべきだろうと思います。

村上部会長：今、保育は量の問題が出ているわけですが、質の問題も重要で、それはいろいろなニーズに応えるということでもあるので、幼児教育に関してはその量だけではなく、質の問題も当然考えていくべきだと思います。

定野委員：先ほど一人親の問題が出ましたが、この間の貧困対策本部で手当てをもっと出してはどうかというご意見がありました。手当てを出したら、子どもと過ごす時間が増えるのかという問題と、そうではなくてお金だけ入って何かに使ってしまうというのでは全然違うわけです。ここのところは少し一人親対策ということで、ただ単にお金を出すだけではなくて、きちんと考えないといけないなと思います。ですから、経済と子どもに対する対策と両方考えないといけないということです。

村上部会長：ありがとうございます。悩ましい難しい問題だと思います。あと5分ぐらいで意見交換を閉じたいのですが、今までいろいろな論点が出てきて、これはこれでかなり全体会では出てこなかったものもかなり出していただいて、非常に多様な見

方を提供していただいたと思います。今、黄色いもので貼っていただいているのが、今日出てきた柱にそれぞれトピックになるかなと思います。まだ他にここが出ていないとか、あるいはこの部分は次回以後、まだもう少し議論すべきではないのかなどといったものがありましたら、最後をお願いします。

岡安委員：ここに書いてある課題ということで、現状・将来の課題ということでだいぶ出てきました。ただし、行政の方として、言い方は悪いですが、反論でもないですが、これに関してはここまで進んでいる、このようなことをやろうとしている、これは来年度、あるいは再来年度に向けてこういうのをやろうとしているといったものもたくさんあると思います。一つひとつの課題をそのままストレートに捉えると、先ほど言われたように暗くなってしまうということになってしまいますが、次回はもう足立区はここまで検討しています、あるいはここまで進んでいることもありますというのを示していただければと思います。

村上部会長：現在具体的な進展をしていれば、次回説明していただいても大丈夫ですか。

基本構想担当課長：資料のご説明のときにでもお示しします。

鈴木委員：10年前の基本構想を見ますと、学校教育では教育改革をやるのだということは基本構想に書かれていて、その中のいくつかは見直しがされたり、これから見直そうかという面もあります。今度の基本構想に入るか分かりませんが、本当にあるべき姿、あるべき学校教育という方向が書かれるとよいというのが一つです。

それから、先ほど出た情緒障がいの方々については、来年度から大幅な制度変更があり、というのは、3年間で全部変えるという話になっているのですが、混乱もあるかもしれませんし、あまり硬くやらないで柔軟にやった方がよいのではないかという面もあります。それは10年後、30年後どうなるのかという点では、そこを見据えて、それも含めて。これは基本構想に書き込むことではないかもしれませんが。

最後に、実は若者のニート・フリーターは一緒にないというのは私も分かります。若者サポートステーション、それから引きこもりネットをつくるなど、足立区はかなり力を入れています。自立という言葉には、おそらく住宅が含まれているのかもしれませんが、やはり若者が自立出来る。ですからやはり引きこもりから脱して、仕事もして、自分のアパートにでも住めるような、そのような足立区のイメージ出来るとよいと思います。

野辺委員：今日のお話では、赤ちゃんから18歳までとかを考えていますが、下と上はたくさん出ましたが、一番大事な小中学生について少しお話が少なかったので、次回はぜひそちらの話をさせていただきたいと思います。

村上部会長：これは次回以降の課題とさせていただきます。

そろそろお時間ですが、どうしても一言という方がいらっしゃいましたらお願いします。

志自岐委員：子どもの貧困や一人親家庭の問題というのは、子ども部会だけではなく、おそらくくらし部会になるのでしょうか。どこか別のところとやらないと、例えば職業訓練や社会福祉の問題などというのは、ここだけで済まないかなと思うような気がします。出来たらくらし分科会にも何かを提案して、話し合ってもらいたいという気がします。

村上部会長：重要なご指摘だと思います。子ども部会でこのような問題がかなり重点的に出たところは、くらし部会の委員にもお伝えをして検討していただいて、それを全体会で持ち寄るという形で進めていただければと思いますがよろしいでしょうか。

基本構想担当課長：お伝えします。事実、昨日くらし分科会がございまして、そちらでは健康面などといったところでも、貧困に絡めてお話もございましたので、共有する部分がありますし、いずれは全体会でもんでいくところもあるかと思いますが、今日のことは次回のくらし部会にお伝えしていきたいと思います。

村上部会長：ありがとうございます。ではよろしいでしょうか。皆様から非常に勉強になる意見がたくさん出てきて、私の進行としてはほとんど何もしておらず、すごく楽をさせていただきました。今日は本当にさまざまなご意見をありがとうございます。これで、現状と将来の課題ということで、また次回以降も引き続き基本構想を議論する中で出てくると思うのですが、今日はこれで第1回子ども専門部会を終わらせていただくということで、また次回以降に議論を続けさせていただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

5. 事務連絡

基本構想担当課長：事務局から次回開催についてご連絡がございます。9月29日の火曜日、午前10時から12時です。会場は本日と同じです。なお、もしもご欠席となる場合には、これまでと同様に電話やメール等で事前連絡をいただけますと幸いです。本日は誠にありがとうございました。なおお車でお越しの方は、出口付近の係員にその旨お伝えください。

午後4時00分 閉会